

令和4年度 自己評価報告書

	成果と課題	今後の取組
確かな学力	<p>○授業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・協同学習を主軸に置いた「若桜学園学びのスタイル」の研究は、計画通りに進めることができた。 ・児童生徒アンケートの質問項目「学習したことがよくわかる」で肯定的評価が89%、「先生はよくわかるように教えてくれる」で94%と生徒の評価は高かった。一方、保護者アンケートでは「お子さんは、学習内容を身につけている」で78%、「お子さんは、授業をわかりやすいと感じている」で61%と低く、児童生徒との差が大きかった。 ・自主的に授業を公開し、評価し合う取り組み（通称OJT）は、若手教師の授業力向上、ミドルリーダーの育成、ベテラン教師の持つ指導力の伝達など、成果をあげている。 ・昨年整備された児童生徒一人1台のタブレットは、電子黒板やデジタル教科書などと合わせて、活用することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「若桜学園学びのスタイル」については、本年度の成果を引き継ぎ、いっそう研究を進めていく。 ・互恵的な人間関係を育んでいけるよう、仲間づくりにも力を入れる。 ・学習形態、話し合いの方法、教材教具の開発、ICT機器の活用など工夫して、学力向上につなげていく。 ・授業を気軽に公開でき、OJTに参加しやすいような日程調整の方法を考えていく。
	<p>○家庭学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒アンケートの「宿題（家庭学習の習慣）が身につけている」では肯定的評価が88%、保護者アンケートでは64%、教職員アンケートでは78%であった。保護者、教職員は、家庭学習は、まだ十分になされていないととらえている。 ・3年目となる「探究」の取り組みは、年々、内容が充実してきている。各種発表会で入賞する生徒が増えた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科ごとの課題の量を把握し、授業と連動した効果的な家庭学習となるよう、改善を図る。 ・eライブラリを保護者にも紹介し、家庭学習での有効活用できるようにしていく。
豊かな心	<p>○あいさつ・言葉遣い</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒アンケートの「あいさつを自分からできている」で91%、保護者は「お子さんは、場に応じてきちんとあいさつができる」で77%、教職員の「児童生徒はあいさつや言葉遣い 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒会の朝のあいさつ運動をはじめ、本年度取り組んできたPR活動を継続していく。

がよい」は58%であった。本年度は、児童生徒会があいさつについて、いろいろ工夫してよびかけ、意識が高まった。教職員の「児童生徒があいさつを進んでできるように指導を工夫している」が、昨年度の75%から88%へと向上した。

・地域学校協働活動で、多くの来校者があるので、あいさつや言葉遣いについて、指導していく。

○読書

・児童生徒アンケートの「読書をよくしている」が65%で年々下がってきている。教職員の「児童生徒の読む本の冊数が伸びるよう、計画的に声かけや指導をしている。」でも65%で、低い数値であった。

・委員会活動はさかんに行われているので、教職員からの働きかけをしっかりと行っていく。

○ルールや決まり

・児童生徒アンケートの「学校のきまりや約束事をよく守っている」で96%、保護者の「お子さんは、社会のルールを守って生活してる」で91%、教職員の「児童生徒は社会のルールを守って生活している」で96%が肯定的な評価をしている。

・子どもたちはきちんと決まりを守って生活できている。学習に取り組む姿勢の向上やいじめの未然防止にもつながるので、継続して指導していく。

○仲間づくり

・1年生から9年生までの全校児童生徒を4つの色別班に分け、学校行事や児童生徒会活動などで、縦割り活動を行った。縦割り班活動は、本校の伝統となっており、異学年がつながり、リーダーとなる学年の児童生徒の自己有用感を高めることができる。また、諸活動への自主的で積極的な取り組みにつながった。

・縦割り班活動は、全校（1～9年生）で取り組むもの、各ブロック（前・中・後期）で取り組むもの、それぞれの内容や目的に合わせて、有効に活用していく。

・児童生徒アンケートの「学校、学級には仲のよい友達がいる」は、肯定的評価が92%、「他の学年の人とも遊んだり話したりしている」で94%、「小中一貫校の良さを感じたことがある」で91%であった。ふだんから縦割り班活動をたくさん取り入れており、異学年の交流があるようだ。

・自分の想いをきちんと言葉にして相手に伝え、よりよい人間関係作りをすることの大切さを、日々の活動の中で理解させていく。

・児童生徒アンケートの「先生は、困ったことがあったら相談に応じてくれる」で92%、「困っている友だちがいたら助けている」で97%、

・10周年記念行事を開催したため、人権教育参観日を設けることができなかった。来年度は、例年どおり実施し、保護者や地域の方に、学校の取組や児童生徒の様子を伝え

	<p>教職員の「いじめの早期発見を心がけ、適切な対応ができています」で100%であった。これらに対し、保護者の「学校は、いじめに対して早期発見・対応ができています」では、「わからない・評価しづらい」が61%であった。</p> <p>「学校は、保護者が教育活動を理解する機会を多く設けている」で68%であった。</p>	<p>ていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校からの情報発信や保護者と学校の連携を強く進めていく。
	<p>○学校行事</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者アンケートの「お子さんは、学校行事を楽しみ、積極的に参加している」で96%、教職員の同項目でも100%であった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍においても、ねらいを明確にし、その達成に向けてどのような活動を仕組んでいくのか考え、よりよい活動をめざす。
<p>体 づ く り</p>	<p>○基本的生活習慣</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ライフスタイル自己点検を、4月と11月に実施した。児童生徒の生活習慣の課題を分析し、生活習慣の改善に取り組むことができた。 ・生活習慣の確立とメディアコントロールについて取り組む「ハッピーすこやか週間」を年3回実施した。期間は、昨年度までは2週間であったが、第2回を3週間とした。第2回実施後、生活習慣の改善ができたという児童生徒が多かった。 ・小学生の就寝時間は、年々早くなる傾向であったが、中学生は遅くなる傾向が見られた。 ・メディア「テレビ（ビデオ）視聴時間」2時間以上は全体的に減少傾向、メディア「スマホ、パソコン、タブレット、ゲーム使用」2時間以上は中後期ブロックで増加傾向にあった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・衛生活化委員による朝食、睡眠、家庭学習開始時刻の啓発活動（アンケート、掲示物、呼びかけ等）を継続して行う。 ・わかさこども園との連携、保護者への啓発を進め、児童生徒の生活習慣の改善、自己管理能力の育成に取り組む。
	<p>○体力づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・レッツラン（1～6年）、昼休憩の全校遊び、1ミニッツエクササイズなど、走力や投力の向上を意識した取組を年間を通して行った。 ・冬季の運動として計画していた、体育でのクロスカントリースキー、小学生の放課後スキー教室は、計画していた時期と積雪量の関係で実施できなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒会の活動と連携して、自主的に取り組めるような活動を継続して行い、運動好きな児童生徒の育成を図る。 ・スキーは、本校の特色ある取組として、時期をずらすなどの工夫をして、実施してい

		く。
若桜から学ぶ	<p>○総合的な学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 6年生の「若桜子どもシンポジウム」は、役場、議会、観光協会等の方に参加していただき、若桜に関する提言を行うことができた。 ・ 8年生の職場体験は、町内14事業所に協力していただき、例年通り実施することができた。 ・ 広島平和研修は、7年生と昨年実施できなかった8年生の2学年で実施した。その一環として、戦争当時の若桜町の暮らしについて、地域の方の話を聞き、学習を深めることができた。 ・ 9年生の修学旅行は、行先と日程を変更し県内で実施したが、総合的な学習の時間で計画していた若桜町のPR活動は組み入れることができなかった。 <hr/> <p>○特色ある学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 保護者アンケートの「学校は、特色ある教育活動を行っている」で82%、「学校は、児童生徒や学校の様子を、保護者に伝えている」で81%であった。 ・ 地域学校協働活動では、延べ100名を超えるボランティアの方の支援があり、学習や校外活動を充実させることができた。 	<p>・ 前年度の取り組みを次年度に生かし、今後も本校の特徴を生かした教育活動として位置付ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 6年生の修学旅行、7年生の広島平和研修、8年生の職場体験、9年生の修学旅行は、総合的な学習の中に計画的に組み入れ、それぞれのねらいを達成していく。 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校からの情報発信について機会や方法を検討する必要がある。 ・ 地域学校協働活動の様子や予定を地域にPRし、理解を進めていく。